



ありんこ便り

由木かたくりの会の家族会「ありの会」会報

2017 年
6月22日発行
通巻第 29 号

「ありの会」へのご意見・ご要望は 〒192-0355 八王子市堀之内1236-8 社会福祉法人由木かたくりの会気付「ありんこポスト」 までに郵送するか、ポストに直接投函して下さい。Eメールで送る場合のアドレスは《 arinko_renraku@yahoo.co.jp 》へ。
ホームページは《 http://space.geocities.jp/arinko_renraku 》です。

ありの会の第7回総会が開かれました

平成 29 年 5 月 20 日(土)午後 1 時 30 分よりフレスコ南大沢の生涯学習センターで開かれました。出席者が 28 名、委任状 44 名の合計 72 名で会員総数 88 名に対して 3 分の 2 以上となり総会は成立いたしました。

総会開始に先立ち、かたくりの会より炭谷理事長、鳥居統括管理責任者、小金淵統括管理者代理が来場され、炭谷理事長がご挨拶をされた後に退席されました。

総会の概略と決議事項の報告は下記のとおりです。詳細は「総会議事録」(ありの会ホームページに掲載予定)をご覧ください。



【総会議事報告】

1. 開会の辞：出席 28 名、委任状 44 名、会員総数 88 名中 2 / 3 以上となり、総会成立
2. ありの会会長挨拶：会長代行 三島副会長
3. 議長選出：田上様を選任
4. 議事
 - (4-1)
 - ① 平成 28 年度事業報告
 - ② 平成 28 年度収支決算報告
 - ③ 監査報告
 - (4-2)
 - 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告、決算報告の承認⇒拍手により承認
 - 第 2 号議案 平成 29 年度役員の承認⇒拍手により承認
 - 第 3 号議案 平成 29 年度事業計画、収支予算案の承認⇒拍手により承認
 - 第 4 号議案 投書要望についての意見交換⇒結論は保留
5. 質疑応答
6. 閉会の辞

第4号議案に関しては「投書要望（インフルエンザの予防接種）」について意見交換を行いました。総会で保護者の皆さんから出された意見を法人に伝え、「ありの会」の総意として要望しました。

法人側からは、医療機関での接種の可否、職員不足を理由に、難しいとの回答であったが、こうした制度があることがまずは大切で、最初は少人数でもトライしてみることが重要である旨説明し、①日程及び受診機関の指定、②職員の随行接種、③医師の訪問接種、④助成金など自己負担額の節減など可能性案を検討し、提案していただくこととした。（期限を8月7日までとした。）

《 新任の津田会長よりの自己紹介 》

この度会長職を拝命しました津田と申します。

息子雄一郎が現在由木工房の生活介護でお世話になっております。「かたくりの会」には22年前に入所させていただき、以来これまで仕事の忙しさにかまけて、息子のこともかたくりの活動のことも家内に任せきりで、ほとんど関与してきませんでした。

世の中、女性の社会進出が求められる中であって、ここだけは異質でお母さん方は明るく、元気でたくましく、いつもその力に圧倒されてきました。

そうした中で、何ができるか自問自答しながら、お引き受けしたからには、少しでも利用者の皆さんの安全と健康と成長の為、一生懸命努めて参りたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

かたくりの会入会式と永年勤続表彰

4月3日、「由木かたくりの会」の入会式が行われました。昨年度途中入会の2名の方と今年度新入会の6名の方の入会式となりました。入会された皆さんの緊張と期待の入り混じった表情がとても印象的でした。

そして新しい仲間を利用者の皆さんが、大きな拍手と、利用者代表の方々の言葉と、かたくり太鼓の演奏であたたかくお迎えしました。

入会式のあとで永年勤続表彰を行いました。お一人お一人のお名前が読み上げられると、それぞれ晴れやかな顔を見せてくださいました。その後、各事業部署で改めて表彰状と記念品をお渡ししてお祝いしました。後輩の皆さんも、先輩方のこの日の誇らしい姿を目に焼き付けておられたのではないのでしょうか。

皆さんへ心よりお祝いの言葉を申し上げたいと思います。改めて入会されたご家族の皆様、今後ともかたくりの会、ありの会へのご協力どうぞよろしくお願い致します。



法人事業説明会

5月12日、かたくり2階食堂にて法人事業説明会が行われました。

事前に配布された資料と、当日配布された資料をもとに、前半は鳥居統括管理者の報告、各事業部署の報告、収支報告、質疑応答、後半は各事業部署ごとで分かれての説明会となりました。説明会の後、各部署で引渡し訓練がありました。

当日の意見、質問として下記のことがだされました。

(Q：質問内容、A：回答)

《Q》各部署の職員の顔写真を通信等でも載せてほしい。特に新しく入られた職員が分からない。

《A》現在各部署の入り口に写真を掲示している。通信等で載せるともっと分かりやすいと思われるが、抵抗のある職員もいるので現在は載せていない。

《Q》生活介護の新規編成、編成の仕方は現利用者も希望どおりになるか？

《A》利用者の特性に合わせてということが一番考えている。必ずしも家族の希望と職員の考えが同じとは限らない。話し合い、利用者にとって最適な編成をを考える。

《Q》レガール事業について、行政からの補助金を利用しない運営はなぜか？

《A》相談支援事業所としての事業開始にあたり、すでに支援事業所は他に決定されており、補助金は出せないということであった。しかし相談支援事業の重要性と、八王子市みなみ野は当時人口が急激に増えているにも関わらず福祉の事業所がなく、ぜひかたくりが拠点をつくりたいという計画で、補助金の申請はできなくても、相談支援事業所をみなみ野につくるということで認可を受けたという経緯。

《Q》給食費について500円という値段について、他施設と比較しても高いと思う。食事提供加算がなぜ適用されないのか？

《A》現在、給食の提供はB型の事業として行っていること、その他の条件により、食事提供加算の適用がない。年々原材料費の上昇もあるが、現在は500円で設定している。

給食費の件については6月12日に行った法人、ありの会合同会議で議題に挙げました。

- ・利用者の生活に占める、給食費の負担が大きい。500円という値段の妥当性を説明してほしい。
- ・「食事提供加算」のことを含めて事業所説明会の回答内容では理解が難しい。書面で分かりやすい説明を求める。

上記の申し入れについて、法人で食事提供加算の適用についての再度行政への確認をすることと、書面での説明をお約束いただきました。次回8月の合同会議でも議題として回答を頂きます。



1 年を振り返って

～ 統括管理者の鳥居尚之さんに寄稿して頂きました ～

社会福祉法人けやきの杜から、昨年の平成 28 年 4 月 1 日よりお世話になり 1 年がたちました。あっという間の 1 年でした。皆様の期待にお応えできたでしょうか。自問自答の毎日です。昨年、ありの会役員の方よりインタビューを受けました。その時の返答の一部ですが確認しながら振り返ります。

①「もう少し上手い対応をしたら、利用者の皆さんが落ち着かれるのかなと感じることが何箇所かありますので、職員が勉強をして、ひとりひとりに対する支援技術があがると利用者の方が安心して生活できるようになる。」

これには、私以上に、小金渕敏之統括管理者代理に手腕を発揮してもらいました。全体研修で、「事例検討会～応用行動分析を用いた課題解消法について学ぶ～」のテーマでの講師役、自閉症の方への理解と対応の DVD の購入（現在各事業部で順番に研修してます）の手配等、今までの経験を活かしての研修を企画してもらいました。

私自身は、職員の皆さんの支援・対応の不安点について、ご本人一人一人を十分に理解できていないので申し訳ないのですが、「一般論」での助言や、実際の対応場面を見て、その場での対応について助言を行いました。この点は、昨年度当初とご本人さんが落ち着かれて生活されている方が増えていれば貢献できたと思います。

②「心がけていることがあって、まずことばがけですね、優しい対応、穏やかな対応ということを職員に常に言っています。」

先日非常勤職員を派遣しました平成 29 年度八王子市の第 1 回障害者虐待法研修のグループワークの資料に、『他の職員は、利用者の方を～さんと呼んでいるが、入職 12 年目の 35 歳で、新人や若い職員を指導する立場でもあるベテラン職員が「～ちゃん」「～っち」などと呼んだり、～さんの話し方のマネをする。ふざけながらではあるが作業中の～さんに対して「～ちゃん、ちゃんとやれよ～」「ふざけてんのか、～！」などと発言することもある。新人職員は日頃より疑問を感じていたが、上司や他の職員に相談できなかった。その後、ある日、～さんに対してベテラン職員が～さんの頭を軽く叩く出来事があり、翌日から通所しなくなった。』というエピソードが載っていました。

いつでも起こりうるエピソードだと思い、改めて「言葉のみだれは、支援のみだれ」を職員の皆さんに伝えていきたいと強く感じました。昨年度も、気になる言葉がけをしている職員には、なるべくその場での指摘などを心がけてきました。職員の対応が昨年度当初に比べて「優しい対応」「穏やかな対応」ができつつあると思います。

今年度は、声の大きい職員がいますので、大きい声が苦手な利用者が多くいる中で、より小さな声かけ、必要であれば、職員が必要な人の所に行って話す（遠くから大声で話すのは、福祉の業界だけ？）ように伝えて行きます。

③「ケース記録を拝見して実情把握をすることで、行ったときに名前だけしかわからないということでもなく大体どのようなタイプの方かとわかると思うので、記録をお話を聞きたい材料にしたいと思っています。」

毎日、ご本人と過ごすことができないなか、目を通すようにしてご本人の様子の把握に努めました。また、少し視点が違いますが、ケース記録を確認する中で、気になった記述について指摘し続けました。表現を変えることは、見方を変えることにもなります。同じことを否定的に見るのか、肯定的に見るのか、本人の責任とみるのか、何か理由があるのではないかと見るのか。それで、ご本人への対応にも変わってきますし、ご本人の受け取りにも変化がでてくると考えています。できないことは、本人の責任でなく、支援力の未熟さだということを職員にはより自覚して、支援の向上に努めて欲しいと考えています。

④「虐待を防ぐ最大のポイントは管理監督する人が、虐待は絶対にだめだと言い続けることです。そういうことがあ

ったときには大きなペナルティが課せられるということを言い続けて虐待はしない風土をつくることが大切です。」

②に通じますが、虐待は絶対ダメと伝えています。職員も同じ意識を持って日々頑張っていると感じています。虐待がない職場風土（風通しの良い職場）になっていると感じています。

最後に、平成 29 年度の計画に職員支援の底上げがあります。個別支援計画書式の見直しや「わかりやすい目標設定」を目標に、「達成」に多くの印を付けられるような個別支援計画作成をめざし、個別支援計画のよりレベルアップと進化に努めます。加えて、職員の支援レベルの底上げをめざします。そのために、非常勤職員の研修派遣や研修発表の場を設けて行きたいと考えています。

法人全体では、グループホーム運営のための法人職員バックアップ体制の構築を進めること。生活介護事業の新規編成を念頭に、現在の利用者を障害の特徴や年齢等を考慮して、3つの特徴のある生活介護事業に編成するための検討をおこないます。併せて、総定員を増やし、新規の利用者（新規卒業）が、定員の空いているところを利用するのではなく、自分の特性に合った生活介護事業を選んで頂けるようにめざしていきたいと考えています。

計画を具体的に着実に進めるには、私だけが旗を振っても意味がありません。理事長以下、役員の理解と協力、小金淵統括管理者代理及び唐戸・平野両管理者の支援と協働、そして事業部責任者、責任者補佐の役割認識と業務執行。全職員の協力とご本人とご家族の支援と協力があってこそ実現できると考えています。

残り、在任 10 か月を切りました。最後まで、皆様の期待に応えられるよう役割を担っていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

鈴木亨さんからの投稿

今回は、鈴木亨さんのお母様の鈴木タエさまの記事です。昨年の法人 10 周年式典で鈴木さんのご家族の方々に感謝状がおくられました。故鈴木昇様はご存知の方も多いと思いますが、タエさんをご存知の方はいないと思います。「かたくりの会と私と」にも書かれていますが、「ぶらさ de かたくり」の土地を貸して頂くなど「かたくり」に深い愛情を注いでいただきました。とても残念ですが昨年 10 月 8 日にご永眠されました。心からの感謝をささげるとともに、タエさまの思い出を振り返りたいと思います。

南多摩郡由木村松木（まつぎ）で大正 13 年 3 月 31 日に佐藤家で生まれました。今でいうと松木小学校の北側にある浅間神社の近くに家がありました。松木で一番高いところで坂を登っていったところだったので屋号が「坂上」と呼ばれていました。自分の知る中で母の父親も農家でした。そして、おじいちゃんは羊を飼っていました。その羊小屋が南大沢に行く道の向こう側の丘陵の中腹にあり、向山と言っていました。1 階が農作業場で縄を編む機械も置いてありました。今、思い出しましたが、向山の入り口には松木町会の消防小屋がありましたね。今の現在位置に近いです。松木のじいちゃんの影響で子供の頃に我が家でも裏庭に羊を飼っていた時期もありました。母は、私の父が満州の地で終戦になり、シベリア抑留から帰国した後に結婚しました。我が家は明治時代からの酪農家の仕事と、養蚕の仕事、シイタケ栽培の仕事をしている、じいちゃん、おばあちゃん、4 人の子の 8 人家族です。母はこの家での食事の支度、牛の仕事をしていました。ばあちゃんは 10 年



近く寝たきりの病気でしたが、それでも仕事と家事をしてきていました。

その頃から堀之内は多摩ニュータウン開発が始まり、その中で全面買収計画に入ってしまった我が家の酪農継続ために飛び回っていた父の陰で牛の仕事と家事に追われていました。我が家では都市住民と取り組む「ユギファーマーズクラブ」(由木の自然と農業を守り育てる会)に来る人のために接待をする事も大変なことでしたが、父を支えていました。父は多摩ニュータウンには農業が必要だと取り組んでいる最中に、多摩養護学校の障害者の家族と出会いました。我が家の畑の一部にログハウスを建て、「かたくりの家」として、そこでの福祉作業所の活動が始まりました。利用者が増えていく中でクッキーの作業所の要望が高まってきました。母の父親のじいちゃんが亡くなった時の相続で羊のいた向山の土地をもらいました。母には妹もいたので由木区画整理後にその土地を半分にしたのが今のプラザ de かたくりところです。鈴木家には堀之内以外には所有する土地などないけど、そこは母の名義の土地です。

嫁いだ先は昭和30年代ごろから酪農家11軒が並ぶ都内でもここにしかない酪農集落地、堀之内寺沢で、その頃は、父の支えであった牛の仕事は自分が20歳を過ぎ、仕事を母とやっている毎日でした。そこに、国の政策であった多摩ニュータウン開発計画がやってきて酪農継続が危うくなりました。その酪農集落存続を願うために多くの人が我が家にやってきました。そのたびに仕事の傍ら母はお茶を出していました。そして、仕事では我が家で搾った牛乳を低温殺菌機のパシャライザーというアメリカ製の器具で低温殺菌牛乳を作って牛の仕事を続けるために応援してくれる人に飲んでもらっていました。

いろんなことがあっても、我が家のために働いていた母ちゃんでした。父が亡くなり、家のかなめになってくれていた母ちゃんでした。体が不自由になっても畑仕事を忘れない母でした。自分たちの土地を守ってきたからこそ福祉で必要としている人たちに土地を提供できることも、母ちゃんががっしりと支えてくれていたからこそ今があります。



ぶらさ de かたくりの
リニューアル開所式にて

お知らせ

◎ おくやみ

会員 馬場光紀様 由木工房 BNさんのお父様

長きにわたるかたくりの会、ありの会へのご協力に心より感謝を申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

◎ 新入会者 (4月1日付)

THさん	かたくりの家	生活介護
YTさん	かたくりの家	生活介護
HYさん	由木工房	生活介護
OSさん	由木工房	B型
TNさん	由木工房	B型
OTさん	ぶらさ・de・かたくり	

◎ 募集

かたくりの家を季節の花がいつもさいていたらステキだな、そんな思いでガーデン作りを思いました。名付けて「かたくりガーデン」。年に2, 3回有志で集まり、ガーデニングを楽しみませんか？第1回は秋に球根を植えたいと思います。お花が好きな方、ありの会の役員になるのはハードルが高いけど、ボランティアでかたくりの会の役にたてるならという思いの方、是非お電話下さい。年に2, 3回活動したいと思います。(月、水の予定) また、家で増えてしまった花などご提供いただけると嬉しいです。



《連絡先》 山田(かたくりの家 生活介護) TEL 042-677-0618
※16:30以降

かたくりの家の庭に
咲くかたくりの花
(2015年3月23日)

◎ WGからのお知らせ

ありの会のホームページの「ありんこ Home」の更新情報をお知らせします。もっぱら役員会の議事録とありんこ便りの更新を行っていますが、他に提起上げて欲しいことなどがありましたら、メールか「ありんこポスト」への投函でご連絡ください。議事録閲覧時のパスワードは2015年(H27年)の第5回総会議案書に記載されています。不明の方は役員へご連絡ください。

- (1) ありんこ便り 27号まで掲載済み
- (2) 役員会議事録 H29年1月分まで掲載済み
- (3) 掲載準備作業中(近日掲載) ありんこ便り28号
役員会議事録 2月分～5月分
H29年第7回総会議事録



もうすぐ梅雨が明けると、暑～い夏がやってきます。
元気にのりきって行きましょう!!!

